

2024 年度「経済学史」第 2 回ミニットペーパー

2024.11.1

・収穫逓増法則では S と D の関係に関する三つの図があったと思いますが、そこでの価格調整と数量調整のメカニズム(一方では価格調整はできるが数量調整はできない、一方では数量調整はできるが価格調整はできない)、特にグラフの動き方についてもう少し詳しく説明していただきたいです。

・限界革命においてはものの見方が変わったというところまでは理解できましたが、見方が変わったことについての意義をもう一度確認していただきたいです。

・名前だけしか聞いたことがなかった、アダム・スミスの 2 つの功績について詳しくすることができおもしろかった。またこれまで何気なく描いていた需要-供給曲線の形の理由も論理的に解明できた。また、需給の均衡(経済システムの安定性)は、収穫逓減の法則あつての話であり、逓増はあくまで例外として考えねばならないという事実が、自身が考えていたものと一致し非常に納得がいった。さらに、労働と価値をめぐる説の正否を度外視した限界革命に関して、経済も含め歴史はこのようにしてパラダイムシフトを繰り返しながら発展してきたのだろうととらえることができた。

・経済学史の授業いつも楽しみにしております。非常に素朴な疑問になるのですが、限界革命とケインズ革命には、「革命」という言葉が用いられているのですが、それほどまでに革新的だったのでしょうか。他にも経済における新理論はあったと思われませんが、この 2 つに革命という言葉が用いられた経緯などご存知であれば教えていただきたいです。